

- ロータリー理解推進月間に -

「和」の心でロータリー活動を実践しよう！

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎



国際ロータリーは1988年から毎年1月を「Rotary Awareness Month ロータリー理解促進月間」と定め、ロータリアンにロータリーの知識と理解を深め、さらに地域社会の人々にもロータリーを理解してもらうためのプログラムを実施する月間としました。また、ポール・ハリスが亡くなった1月27日を含む1週間を「追悼記念週間」としています。ポール・ハリスの功績を偲び、ロータリーの生い立ちだけに終始するのではなく、しっかりと現実を見据えて、今一度ロータリーについての思いを馳せたいものです。

ポール・ハリスは人生観や宗教の相容れない人、利害の相対する立場の人が一堂に会して、友愛の場を持つためには「寛容の精神」が必要であると提言しています。簡単な礼儀を心得て自分が優越感を持たないこと、つまり平等の立場の重要性について述べています。

ロータリーはその誕生以来、一貫して職業に関する道徳の向上を提唱してきましたが、社会奉仕を強く唱える人と親睦が中心であると唱える人との間で争いが起りました。この二派の思想を調和させるとともに、当時のいろいろな見解を網羅してロータリーの基準として作成されたのが、1923年セントルイス大会での「ロータリーは利己と利他との調和を求める哲学である」とする決議34号です。超我とは自己を超えるということですが、ロータリーは相手を思いやる心からはじまったものです。

今年度の国際ロータリー リチャード・D.キング会長は、「ロータリーは私の人生に授かった贈りものでした。それは私が他の人々と分かち合いたいと望んでいる善行の機縁、また、あなた方にも同じように分かちあってもらいたいと思う機縁に巡り会えたことです」と解かれています。

さらにキングR.I.会長は、「ロータリアンたるもの誰でも、人道的な働きをせずに生涯を送ったことを後悔しながら、人生を終えることがないようにいたしましょう。ロータリーの道貫き、他人に奉仕し、成長と繁栄に力を尽くすことによってこそ、すべてのロータリアンは“人類が私たちの仕事”というこの力強い誓約を公言して果たすことができるのです」と重ねて解かれています。

キングR.I.会長の意を踏まえて、私は聖徳太子の17条憲法「以和為貴」の「和」の心でロータリーを楽しみながら、皆さんとともに充実した人生を歩みたいと思っています。

世界情勢、経済情勢が激変している今日の社会では、ロータリーも時代と共に変化していかなければなりません。ロータリーには寛容と忍耐が求められていますが、今、「癒しの心」が必要ではないかと私は考えます。ロータリアンは仲間から思いやりの心で癒され、再び職業奉仕に意欲が湧いてきて、地域社会と国際社会のニーズにあって奉仕が甦ってきます。その時、ロータリアンにとっても、地域社会、国際社会にとっても癒されているのではないのでしょうか。そしてそこには「癒し」のShareが生まれるのです。

このようにロータリーの活動を通じて人生を充実させて、国際ロータリーのテーマに向かって、癒しの心で実践していこうではありませんか。ロータリアンとしての心ある行動を期待いたします。

ロータリー情報委員会の活動の「ロータリー理解推進月間」に因み、“Mankind is our business”をより一層探求し実践して、お互いに充実したRotary Lifeを謳歌し、ロータリーの終局の目的である世界平和のために歩もうではありませんか。

- 1月はロータリー理解推進月間 -

変化する規定に理解を

地区規定審議委員会 委員長

山室 義郎

(舞鶴RC)



国際ロータリーの運営レベルは、三つに分けて組織されています。クラブと地区と国際面です。R.I.理事会、または毎年の国際大会、そして3年ごと開催される規定審議会などの認可を得た手続要覧や方針の枠内で機能しており、それぞれのレベルで、ロータリアンに奉仕の機会を提供しています。

最初にロータリーの定款と細則が採用されたのは1910年です。しかし年月とともに多くの国々が、ロータリーに加盟してくるにつれて、その改正修正が必要となってきました。その後1922年のロサンゼルス国際大会で、国際ロータリー定款細則が採用され、今後R.I.に加盟するすべてのクラブは「標準ロータリークラブ定款」を採用しなければならないとの決議がされました。これが現在国際ロータリー活動の土台となっている、ロータリー「法」の本体といえます。初期のころは国際大会で新規則の制定あるいは改正を求める提案を、スムーズに処理しておりましたが、大会の規模が次第に大きくなるにつれて国難となり、規則制定の諮問機関として規定審議会を設け、規定の改正についての案件はすべてこの規定審議会に審議したあと、国際大会で最終的採否を決議することになりました。

新制度による最初の規定審議会は、1934年デトロイト国際大会で開かれました。その後1970年のアトランタ国際大会で規定審議会を、国際ロータリーの規定制度機関とすることが決定され、単なる諮問機関でなくロータリーの「議会」となり、ロータリーの発展と変化に合わせて組織規定を改正するために、3年ごとに開催される大会となりました。

この規定審議会は、クラブ、地区大会、R.I.理事会、あるいは規定審議会自体が提出するすべての制定案、決議案の審議として採決をしています。

採決された立法案については、全ロータリークラブによる審議検討を受け、手続を踏んでクラブ定款も長年のあいだに随時改正されてきました。

今回の規定審議会は、2001年4月22日から27日までシカゴで開催され、世界163ヶ国と地域から523人の代表議員が出席して、631件におよぶ案件を討議し55件の制定案と43件の決議案が採択されました。特に出席規定に関する緩和と会員増強カテゴリーの制約を緩和し、簡素化した制定案が採択され、「標準ロータリークラブ定款」についても、その内容を変更することなく明瞭且つ簡素化されたものになりました。新しく第一条に「定義」の条項が設けられ、第16条「解釈の仕方」の条項が削除されております。なお「推奨ロータリークラブ細則」は、各クラブ細則の見本というべきもので、それをそのまま採用するよう義務づけられているのではなく、各クラブでクラブ定款に矛盾しない限り、それぞれの事情によって変更することができます。新しい「手続要覧」は、明確化された要旨資料となりますので、それにもとづいて各クラブ定款の改正と細則に関係あるものについては、定款の範囲内での見直し等適切な対応をお願いすることになります。なお「手続要覧」は、国際ロータリーの方針に顕著な影響を与える理事会の決定事項の抄録とともに、国際ロータリーのウェブサイトに掲載されております。

- 1月はロータリー理解推進月間 -

ロータリー情報委員会の活動

地区ロータリー情報委員会 委員長

山中 欣治

(大和郡山RC)



西村二郎ガバナーは、地区の方針として国際ロータリーのテーマに向って、- ロータリーを通じて人生の充実で実践を、そして癒しの心で - を、最重点課題として 会員増強、ロータリー財団への貢献、地区大会の成功、とされました。ロータリー情報委員会はこの課題に則り、実施されるべく情報を提供し、活動しております。先ずロータリー情報委員会が中心になって手続要覧の精読、一般会員の皆様にも普及するようにいたします。全会員が手続要覧に記載された情報を身につけることは、ロータリーの発展につながり、殊に新会員への情報の正しい理解と伝達は、ロータリークラブの活性化の基礎であります。また新会員には、千宗室ロータリー財団トラスティ・R.I.元理事の「ロータリーと私」と題しての講演内容を情報提供に役立て、ロータリーの奉仕について、知識と理解と責任感を涵養し、クラブや委員会、個人としての奉仕活動がロータリーの綱領に則り、目標にかなった計画の下に実施されるべく情報を提供します。

津田佐兵衛パストガバナーに諮問委員として指導いただき、地区内91RCを3班に分けて、地域分散型・新旧クラブ混合のロータリー情報委員長協議会を開催いたしました。ロータリー情報委員会の責務別に各委員長の発言要旨をここに報告いたします。各クラブの今後の活動に役立てていただければ幸いです。

新会員に対するインフォメーションについて、入会の前後に行っている。また入会前に家庭訪問して家族を混えて行っている。例会には入会后数ヶ月は新会員と同席する。また他クラブへのメイキャップに同行する。また例会とは別に、新会員、入会3年未満の会員に、ロータリーの目的、歴史、規模、活動内容、入会後の特典と義務について説明する会を設け、パスト会長よりロータリー情報を聞き、新旧会員の親睦の場としている。この会でロータリーの綱領、定款、細則、規模、活動、R.I.地区の組織について情報委員長が説明している。

ロータリー情報を毎例会において3分間スピーチをしている。また毎回週報に載せる。

手続要覧の通読については、理解し易い文章にして会員に伝えている。特に新会員に対するInformationのために、各クラブでオリジナルのマニュアルを作成し製本にしているクラブが多い。

同好会、趣味の委員会の同化は親睦と退会防止に役立つので開設に努める。津田佐兵衛ガバナーの時の1989～90年度のテーマは“Enjoy Rotary”であった。

情報集会を年に4～5回開催しているクラブが多い。クラブのベテラン、パスト会長がリーダーをつとめ、テーマは会員増強、退会防止等。会合は7～8人の少人数グループに分けて集まるので自由発言、討議、意見発表の絶好の機会となり、その後は良き親睦の場となり、西村ガバナーがよく口にされる「聖徳太子の和の精神」そして「癒しの心」に通じる。

ロータリー情報委員会は3年委員制である。

最近クラブのベテラン会員、パスト会長等の退会が多いので、情報委員会と退会防止委員会と連携して対処する。

インターネットの普及とホームページ作成による速やかな情報の提供をはかる。

会員増強は永遠の課題であり、退会防止をすることがクラブの活性化につながります。ロータリー情報委員会は会員増強、退会防止委員会と連絡し、Mankind is our businessを会員に周知徹底する情報提供し、活動することが魅力あるロータリーになることを確信いたします。

ロータリー活動での感動的な場面

インターシティミーティング(第5組)

I.M.実行委員長 吉田 桂(福井北RC)

地区インターシティミーティング(第5組)は、本年度最終回を迎え、11月17日(土) 福井市、フェニックスプラザにて、西村二郎ガバナー、宮崎茂和ゼネラルリーダーをお迎えして、県内16RC482名の参加を得て開催されました。

テーマ「ロータリー活動での感動的な場面」をIMでどう取組むべきか実行委員会で検討した結果、16RC全ての会長に前もって原稿の提出をいただき小冊子にまとめたものを県下全ロータリアンに配布しました。この資料にももつづいて、宮崎ゼネラルリーダーに後述のパネリストを選んでいただきました。

当日は中野重宏パストガバナー、岡村吾郎ガバナーエレクトをはじめ、4名のご来賓を迎え、ガバナーの挨拶、来賓、主催役員、参加クラブの紹介があり、基調講演が開催されました。

講演のテーマは勿論表題のとおり、講師にはホストクラブの現会員酒生文彦氏、サブテーマ「知識と智慧」ということで、約1時間感動的なお話を頂きました。講演の内容は紙面の都合で割愛しますが、軽妙洒落な話術と人生経験豊かな氏を彷彿させる話題が盛澤山で、満席の会員からも絶賛の拍手を浴びました。

パネルディスカッションは、宮崎茂和ゼネラルリーダーを中心に、コーディネーター中谷寿磨氏(福井北RC、IM実行副委員長)パネリストに次の6名に登壇して頂きました。ローターアクトとロータリー：中村利章氏(大野RC) ロータリーの広報：杉原春樹氏(武生RC)



新世代のための会議：原田芳孝氏(敦賀RC) 増強と拡大：宇野良二氏(福井RC) 環境と新世代とビオトープ：仙坊孝治氏(福井北RC) 留学生との交換：三谷彰氏(三国RC)の方々。ロータリーの活動を通してそれぞれ体験したことを発表しながら、ロータリーでしか味わえない感動を披瀝して頂きました。西村ガバナーより与えていただきましたテーマが見事に結実した感じです。時間の関係上、会場からの声を充分聞き出せなかったことが残念で深くお詫びします。

次年度ホストに、鯖江北RCが決定し、鯖江北RC全員が壇上から皆さんにご挨拶する姿も感動的でした。

大ホールに席を移した、白井敦夫氏の率いるフルバンドのミュージックをバックに開催された交流会では、ホストの緊張感も解け存分に楽しむことができました。最後になりましたが関係者の皆様本当に有難うございました。



ガバナー賞

第2650地区では、例年に倣って地区ガバナー賞を設けております。クラブ、または個人が、次の3つの目標の内1つを達成したとき、受賞資格があるクラブ、または個人と判定し、慎重に審査のもと、来年4月の地区大会において表彰いたします。

2002年1月18日までに、資格のあるクラブはガバナー事務所まで報告してください。

受賞資格

会員増強・退会防止・拡大に貢献

ロータリー財団への貢献

新世代への奉仕

(詳細はガバナー事務所までお問合せください。)

紫竹物語として

創立10周年を迎えて

京都紫竹ロータリークラブ創立10周年実行委員長 **佐々木捷二**

1991年7月、京都紫野ロータリークラブをスポンサーとして誕生し、先輩諸兄のご指導のもと10周年を迎えることができました。10月20日(土)京都ブライトンホテルに於いて、10周年記念式典を開催致しました。

西村二郎ガバナーをはじめ、西村大治郎創立時ガバナー、IMのゼネラルリーダーを務めて頂きました本田茂パスト・ガバナー、関連6RCの会長、市内22RCのロータリアン、姉妹クラブである台北新生ロータリークラブ張会長、多数のメンバーが遠路はるばる参加を頂き盛大に挙行することができました。

厳粛に和やかに進行し、西村二郎ガバナーはじめ、来賓の方々より温かいお祝いと激励の言葉、そして時には厳しい助言を頂き、会員全員心を新たに致しました。

千宗室ロータリー財団トラスティ・R.I.元理事には、R.I.公式行事でご欠席のため、ビデオによるご祝詞を賜りました。

「紫竹10年の歩み」については15分間のビデオ「紫竹物語」として紹介致しました。1年ごとの奉仕活動を会長テーマとともに振り返り、ビデオや写真を取り組みナレーションを付けて放映しました。

これはこの後行われます今年度の10周年記念事業等を加えて、記念誌に代わる記念ビデオとして完成させ、皆様方に配布する予定であります。また、紫竹ロータリークラブのPR資料、会員増強の参考資料、新会員の手引き等としても利用することができます。



琵琶湖の水環境に対して自分達ができること 高島RAC創立15周年を迎えて

地区ローターアクト委員会 委員長 **長崎 一幸**

比良山系の山並みをひかえ、白砂の美しい湖西の地に高島ローターアクトクラブが1987年に高島ロータリークラブにより次代を託した若者17名を募り、地区内27番目のローターアクトクラブを提唱されました。よい種をまけば必ずよい実がなるの言葉どおり、クラブのご指導、ご尽力が今日の高島RACがあるのでないかと思います。

11月11日(日) 今津サンブリッジホテルに於いて、山崎直前ガバナー青少年担当諮問委員、地区役員、委員のご出席を得、15周年という節目を祝って記念式典を開催されました。

設立当時のテーマ「友達の和を広げよう！」が、今もかわらぬアクトの友情を深めアクト活動を支えていると考えます、その結束が15年の間、2名の地区代表を送り出すことができるクラブを育てたのだと思います、今年度、山下地区代表(高島ローターアクトクラブ)のもと2650地区は37クラブを有する名実とも日本一の地区に成長しました、そしてその大きな原動力を持ったクラブであると感じました。井上千津子会長のもと、成せば成る成さねば成らぬ何事ものテーマと、記念事業である琵琶湖の水環境に対して自分たちでできること、を掲げて活動されています。

厳しい社会情勢の中、地域の活性化そして自然環境保護により一層の尽力を期待いたします。



自己を見つめる インターアクト地区大会 ホスト花園高等学校IAC

地区インターアクト委員会 委員 赤松 和雄(京都洛西RC)

11月4日(日)インターアクト地区大会が、秋晴れの中、西村ガバナー・岡村ガバナーエレクトを始め多くの地区役員をお迎えし、洛西ロータリークラブが提唱する、花園高等学校IACがホスト役として開催されました。

2650地区内、17の各インターアクトを始め、提唱クラブ委員長並びに顧問の先生方が大本山妙心寺・花園会館にお集まりいただき「自己を見つめる」をテーマに、有意義な1日を過ごすことができました。

特別講師として、大蔵流狂言師、茂山茂様に「個と集団」という演題でご講演いただき、昼食は妙心寺山内微妙殿にて、精進料理を全員いただきます！の合掌のもと頂戴しました。

午後からは法塔龍天井見学、花園高等学校後藤校長先生のご指導により、座禅の講話と体験を実施させていただきました。その時間を利用して地区委員会、各IAC顧問、RC委員会の合同会議を開き、現状報告を兼ね、今後のIACの方向性等々の話し合いを持ちました。時間が余り無く残念でしたが、次の機会に議論を深めたく思っております。

全員で写真撮影をし、最後の全体会議に移りました。各校のIACの代表が、今日一日のこと、日頃の奉仕活動の報告をし、次回ホストクラブを京都府立桃山インターアクトクラブと発表され無事終了しました。

座禅・精進料理と日頃無縁の生徒達が、それを実践体験することにより、衝撃にも似た感動を得てくれ、講師の茂山茂氏が26歳とお若く、生徒達と世代的にも近く共感を感じ取れる内容であったのも結果として良かったと思います。

花園高等学校IAC山本会長を始め、生徒達がホスト役としての責任を充分果たしてくれ、全体会議で発表した17クラブの生徒達の内容も素晴らしいものでした。21世紀は、堂々彼等・彼女達に託せるものと安心できた地区大会でもありました。

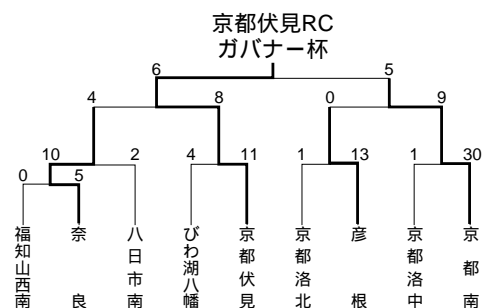


優勝 京都伏見RC ガバナー杯野球大会

ホスト 京都伏見RC 松原 一郎

10月27日(土)快晴の佐川急便グラウンドに於て、当地区ガバナー杯野球大会が京都伏見RCのホストにより開催された。

参加クラブは、意外に少なく9クラブ。午前10時より開会式。小林哲夫地区副幹事長(京都南RC)がガバナー代行として始球式。隅野政美(福知山西南RC)の力強い選手宣誓。午前10時30分より熱戦の火蓋が切って落とされた。12月2日(日)、優勝、3位決定戦があり、京都伏見RCが6年ぶり3回目の優勝。準優勝京都南RC、3位に奈良RC。次年度はホストに京都南RC。多くのクラブが参加していただきますようお願いいたします。



ニューヨーク災害救援義援金ご寄付のお礼

R.I.2650地区ガバナー 西村二郎

日頃は地区の運営にご協力いただき有難うございます。“ニューヨーク災害救援義援金ご寄付のお願い”を致しましたところ、皆様にはその主旨を十分にご理解賜り、大変貴重なるご浄財を送金下され、ご協力いただきましたことを有難く厚くお礼申し上げます。

お寄せいただいたR.I.2650地区内クラブよりの義援金4,371,801円は、国際ロータリーWCSプログラムエリア・Aコーディネーター菅野多利雄様に送金申し上げ、その後のお取り計らいをお委ねいたしました。

謹んでご協力に感謝致しますとともにご報告させていただきます。ご協力いただきましたクラブは以下の通りです。

五條、平城京、生駒、橿原、橿原中央、奈良、奈良東、奈良西、奈良大宮、王寺、桜井、大和郡山、綾部、福知山、福知山西南、亀岡、京都、京都伏見、京都東、京都北東、京都市陽、京都桂川、京都北、京都南、京都モーニング、京都紫野、京都中、京都西、京都西山、京都乙訓、京都洛中、京都洛北、京都洛南、京都洛西、京都洛東、京都嵯峨野、京都西北、京都西南、京都紫竹、京都朱雀、京都田辺、京都山科、京都山城、京都八幡、舞鶴、舞鶴東、峰山、宮津、園部、宇治、宇治鳳凰、五個荘能登川、彦根、甲西石部、草津、守山、長浜、長浜東、大津東、大津唐橋、大津西、栗東、滋賀湖北、高島、野洲、八日市、福井、福井北、福井西、三国、大野、鯖江、武生、武生府中、敦賀、若狭



ニューヨーク災害救援義援金 決算書		2001年11月26日
収入	義援金総額	85,178,446円
	利息	833円
	計	85,179,279円
支出	第7230地区へ送金	15,000,000円
	第7250地区へ送金	15,000,000円
	送金手数料	14,000円
	(7,000円×2)	
	アメリカ大使館へ小切手持参	55,150,000円
	計	85,164,000円
	残金	15,279円

* 残金は本日の資料送付に使わせて頂きます。
 1通430円(速達料金を含む)×48通=20,640円
 48通は、ご協力頂きました29地区・13クラブ・1ロータリアン・WCSプログラムの災害救援ゾーンコーディネーター5人へお送り致します。なお、不足料金は当方で負担致します。

国際ロータリー第2650地区 ガバナー 西村二郎様

前略 先日、取り急ぎEメールにて、義援金の件でご報告申し上げましたが、本日資料を添えて、ご報告致します。この度、義援金をお願い申し上げましたところ、皆様方から巨額のご協力を頂きました。改めて、ガバナー各位、ロータリアンの皆様から敬意と感謝を申し上げます。

- 11月20日米国大使館における義援金贈呈の際の写真1枚
- 七十七銀行塩釜西支店(2001年9月20日開設)における義援金入金内容(通帳写し)
- 9月20日入金の5,000円は口座開設のためのもの(菅野負担)
- 義援金明細一覧表 地区数29/ロータリークラブ数13/個人2
- ニューヨーク第7230地区・第7250地区送金明細(七十七銀行) 両地区より受領報告・感謝のメール(当方からの送金メール含む)
- 第7230地区ガバナーへ献金した日本の地区名・ロータリークラブ名・個人名をEメールで送信

9月20日口座開設以降、11月19日口座解約までに要した費用は一切当方で負担させて頂きました。また、11月20日の米国大使館訪問に要した費用は各自負担と致しました。

残金があります際には「ガバナー会」に入金致します。以上、ご報告申し上げますが、もし説明不足の件がありましたら、小生宛にご連絡下さい。

なお、申し添えますが、アメリカ大使館訪問についてはWCS災害救援ゾーンコーディネーターの方々から菅野・菅原・皆川の3名に依頼する旨のご了承を頂いております。

WCSプログラム・エリアAコーディネーター
 国際ロータリー元理事
 菅野多利雄

DLP 研究委員会発足 - ガバナーを補佐 -

地区副幹事長 中島喜代一(京都南RC)

R.I.第2650地区では、2002-2003年度より地区リーダーシッププランがスタートすることになりました。地区リーダーシッププラン(略してDLP)の概要については、手続要覧(1998年)の33頁にその概要が掲載されています。一言で言えば、これまではなかった「ガバナー補佐」という職責を設けて、ガバナーの業務の一部をサポートするとともに、各クラブに対しても、運営がスムーズに行われるよう支援をしてもらおうというものです。

今年度、宮崎パストガバナーを委員長とする「DLP研究委員会」で、当地区における実施要項が作られましたが、この要項によれば、ガバナー補佐は予め決められた地区を単位として、合計6名の方が選出されることになっています。

クラブだより

ペットの糞公害を無くすために

社会奉仕委員長 山本 征男
(京都田辺RC)

当クラブのテリトリーである京田辺市では、ペット飼養の住民が増え、公園などの公共場所ではペットの糞の不始末が故に環境汚染が急増している。社会問題まで発展したこの糞公害を根絶するためには、ペットの飼い主のモラルとマナーの向上を絶対条件と考え、大型公園には大型啓発看板を、小型の公共場所には小型看板を設置し、糞の始末をするように注意を喚起する事業を計画した。

この奉仕活動は、京田辺市と地域のボランティア団体との共同事業であり、大型啓発看板2枚を花住坂中央公園と木津川つつみ緑地公園に当クラブが設置、小型看板145枚を京田辺市に贈呈した。

10月18日の例会日に贈呈式。例会後に会員が上記の公園にて大型看板の設置を行った。地元のニーズに応じた奉仕活動を通して、地元でロータリークラブの存在と行っている奉仕活動を知って頂き、相互の連携を一層緊密にし、最終的に会員増強に繋がると考える。また、共同作業を通して、会員間の仲間意識と友情を深め、奉仕に対する理念の実践ができたことは退会防止にも繋がると考えている。



台北中山RCと4回目の姉妹締結

ロータリー情報委員長 田中 文夫
(福井南RC)

10月30日、台湾・台北中山RCとの姉妹クラブ関係を更に続けるため、「姉妹クラブ締結継続調印式典」を行った。両クラブは1989年に姉妹クラブを結び、3年毎に継続調印をしている。今回で4回目の継続調印となり、2004年まで姉妹クラブ関係を続ける。

式典には国内姉妹クラブの新田RC(群馬県)からも会長初め関係役員がかけつけていただき、3クラブの友好を深めることができた。

この夏7月30日～8月6日迄、台北中山RCの会員の子供達をホームステイし、5名受入れた。来春は福井南RCより、会員の子供達の派遣を予定している。両クラブの会長は、これからは若者同志が交流を深めることを期待している。



「きらきらと輝く笑顔の子供たち」出版

宇治鳳凰RC 会長 神田 豊

R.I.第2650地区がWHOなどと協力して進めている「ポリオ根絶運動」に、1996年以来参加した当クラブの高橋権也会員が、このたび記録をまとめ、「きらきらと輝く笑顔の子供たち」を出版致しました。

本書はポリオ根絶のボランティア活動を通じて知ったアジア各国の医療の現状と、そこに住む人々の生き生きとした生活を分かりやすく紹介すると同時に、ポリオ根絶の重要性を訴えた貴重な記録です。

本売上げ代金301,760円、高橋会員の患者さん大森健三氏より100,000円、会員の協力で計456,760円をWCSに寄付しました。

多くのクラブからもご購入いただき、ご協力ありがとうございました。

11月22日(木)に公式訪問で西村ガバナーに目録を進呈させていただきました。



ガバナー表敬訪問

2001年10月4日(木) びわ湖八幡ロータリークラブ



会長 川嶋正昭・幹事 野瀬宇一郎

「らしい行動で奉仕に務めよう」をテーマに、来年15周年を迎えられる若々しいクラブ。例会終了後、クラブが管理されている「琵琶湖友愛の森」にて、公式訪問を記念して、ガバナーと川嶋会長が植樹をされました。

(杉本正樹 記)

2001年10月5日(金) 福井西ロータリークラブ



会長 中道昌宏・幹事 前側 宏

ガバナーアドレスは格調高いスピーチ。和やかに会長幹事懇談会。中野会長はじめ、パスト会長が培かわれた和気あいあいのクラブ運営が、会員の減少に歯止めをかけ、益々充実したクラブに今後は発展前進するものと確信しました。

(芳野佑伍 記)

2001年10月9日(火) 福井南ロータリークラブ



会長 今井庚四郎・幹事 渡辺政士

昨年、創立30周年を終えられ、成熟期として益々充実しているクラブ。近年会員の減少が目立ち、一時期80数名在籍していた会員も現在では68名と減少。今井会長を始め会員一丸となって会員増強ならびに退会防止活動への気運は高く、クラブ協議会の運営は活気に満ち溢れ、各委員長の方針や計画には、探求と実践に裏付けられた迫力があり感銘しました。

(西村信行 記)

2001年10月10日(水) 高島ロータリークラブ



会長 小崎博保・幹事 岸田一男

風光明媚な琵琶湖畔のロータリークラブ。来年6月には、創立25周年を迎えられます。会員数45名のメンバーの皆さんが、小崎会長のもとにまとまりのある活動をされていると敬服をいたしました。

(谷口主嘉 記)

2001年10月11日(木) 甲西石部ロータリークラブ



会長 谷 康彦・幹事 上西 保

今年度のテーマ“ I serve ” - Let's take actions - を掲げられ、一人一人が自分を見通し、活発にすべてのことに取組んでおられます。非常にまとまりがあり、益々発展されるすばらしいクラブと感じました。

(原 悟 記)

ガバナー表敬訪問

2001年10月12日(金) 大津中央ロータリークラブ



会長 奥村清雄・幹事 山本進一

会員の平均年齢が55.5歳と活気と若さ溢れるクラブ。奥村会長の活力あるクラブ運営と親睦委員長が入会2年目の川口美智子会員。女性会員が活躍されているのが印象的でした。

(三浦直人 記)

2001年10月15日(月) 福井東ロータリークラブ



会長 村井博之・幹事 山 登志雄

村井会長の「原点へ戻す」という方針のもと、定款・細則に基づいたクラブ運営や既退会者の再入会、同好会の新設等、魅力あるクラブづくりに向けた取り組みがなされ、本年度、会員増強達成のお手本を示して頂けるものと思います。

(西脇眞次 記)

2001年10月16日(火) 京都西南ロータリークラブ



会長 山岡景一郎・幹事 横山卓雄

山岡会長を始め会員の皆さんが、ガバナーアドレスを熱いまなざしで静聴されていました。入会式もあり、全会員が新会員を暖かく迎えておられる姿に、今後益々のクラブ発展が期待されます。

(佐野剛一 記)

2001年10月17日(水) 丸岡ロータリークラブ



会長 西野清志・幹事 前田 章

福井駅までわざわざお出迎え頂き、丸岡城天守閣に登り、雨に煙る景色と暖かいおもてなしに感動。丸岡町(町長：丸岡RC会員)坂井町を表敬訪問。和やかに会長幹事懇談会。アッセンブリーは熱心で活発な発表を聞き、勉強させて頂きました。今後のご活躍と益々のご発展を祈念いたします。

(辻 建而 記)

2001年10月18日(木) 平城京ロータリークラブ



会長 小川禎一・幹事 三浦伸一

今後益々発展されると思われる、平均年齢56才の情熱と活力あるクラブ。小川会長の寛容の精神をもって心を開こうのモットーのもと、地域社会貢献への取組みはガバナーも満足な様子でした。

(阿閉嘉美 記)

ガバナー表敬訪問

2001年10月19日(金) 三国ロータリークラブ



会長 真田一郎・幹事 出口隆弘

地区最北端の三国クラブは、65名の会員がよくまとまり、年齢構成もバランスのとれた良いクラブ。林ガバナー時の地区大会ホストや、宮崎ガバナー時のロシアタンカー流出重油除去ボランティアの活動が、クラブ活性化の原動力となっているように感じました。

(小林哲夫 記)

2001年10月23日(火) 京都八幡ロータリークラブ



会長 谷口年男・幹事 森井雅春

なだらかな山道を登ると神馬がいた。例会場である石清水八幡宮。神前でお祓いをうける。紅葉には少し早すぎたが、見事な景観だろう。谷口会長・森井幹事と皆さん家族的な雰囲気クラブ。若い会員の入会があれば、クラブが活性化し飛躍されると思われました。

(中川博補 記)

2001年10月24日(水) 八日市南ロータリークラブ



会長 岡田 晶・幹事 田淵和治

創立6年目とクラブ歴は浅いが、八日市RCからの27名のチャーターメンバーが影響力をもって活動され、岡田会長テーマ、和「友達を増やそう」のもと、会員増強並びにロータリー財団、米山奨学会活動のご努力は、益々のクラブの向上につながると思います。

(阿閉嘉美 記)

2001年10月25日(木) 京都田辺ロータリークラブ



会長 高橋資明・幹事 島本英樹

創立6年目を迎えられ、高橋会長、島本幹事を中心に若さと活力のあふれるクラブ。「わがまち京たなべを美しくする会」など、地域に密着した活動をされ、次年度I.Mのホストクラブとして全会員が燃えているすばらしいクラブでした。

(山上哲賢 記)

2001年10月26日(金) 長浜東ロータリークラブ



会長 村田武夫・幹事 伊藤正基

恒例となっているガバナーと村田会長との記念植樹。長浜城に隣接した「みどりの森」で行われ、多くのパスト会長の暖かいお出迎えを受け、品格ある落ち着いた雰囲気の中での公式訪問となりました。益々のご発展を祈ります。

(武田隆司 記)

ガバナー表敬訪問

2001年10月29日(月) 五個荘能登川ロータリークラブ



会長 上林庄蔵・幹事 武藤 久

少人数のクラブではあるが、原点に戻って、原点からの出発という上林会長の熱い思いが、全会員から伝わってくるようなクラブ。今年着任されたという事務局員さんに入れていただいたコーヒーが、会員のみなさんの心のように暖かく感じた。(中島喜代一 記)

2001年10月30日(火) 彦根南ロータリークラブ



会長 青山恵三・幹事 上野全人

昨年度、地区大会のホストクラブ。「ロータリーたのしく、ゆかいに」を会長テーマに、なごやかな雰囲気の中にもメリハリのあるクラブ運営をされ、必ずや会員増強を達成して、益々発展されるとの思いを強くいたしました。

(米川安宜 記)

2001年10月31日(水) 栗東ロータリークラブ



会長 堀 紀彦・幹事 高畑 修

町から市制にと、繁栄する地域。ガバナーのアドレスは、ロータリーには厳しさも必要との考えがよく伝わり、意義あるアッセンブリーであった。年会費を減額したり、会報を手作りにして軽費節減に努力されている姿に、ガバナーより賛辞が贈られた。(北尾哲郎 記)

2001年11月1日(木) 京都洛東ロータリークラブ



会長 竹内紀雄・幹事 西口展彦

“ユアペースで共に楽しく”の竹内会長テーマが示すとおり、和気藹々と思いやりあふれる暖かな雰囲気クラブ。会報をクラブ内で作成するなど資金面の工夫をしながら、積極的な活力のある施策を展開されています。

(杉島辰海 記)

2001年11月2日(金) 京都紫竹ロータリークラブ



会長 林 佳弘・幹事 芝山義雄

少し緊張気味の林会長、芝山幹事。会長幹事会懇談会が進むうちリラックス。林会長が少ない会員であるがクラブをうまくまとめられた運営をされ、全会員が会員増強、クラブ活動を積極的にされているとの印象を受けました。

(深田明彦 記)

未来への発信

職業奉仕が最も大切



福知山RC 大西 勇人

同日入会のおよしみで、という理由のもと、当クラブ福島幹事より難しいテーマの原稿依頼を受けてしまいました。名ばかりのロータリアンで、不勉強の私にはおこがましい限りですが、少々感じたことを書かせて頂きます。

他人のために何かお役に立ちたいという気持ちは、程度の差こそあれ、万人にあるのではないのでしょうか。気持ちはあっても、なかなか実行に移せないというのが実状でしょう。その中で、何故ロータリーなのでしょう。

私の場合は「職業奉仕が最も大切」とのお話を伺ったことが、入会の最大の理由だったように思います。ロータリーの精神のもと、各自が職業奉仕を中心に、各自の能力や熱意にあう奉仕を、各自の判断で、そして各自の職業や家族にしわ寄せが生じない範囲で行っていけば良いものと、勝手に解釈しておりました。

しかしながら、決議23-34：社会奉仕に関する1923年の声明が重視されなくなり、また個人奉仕より団体奉仕が重んじられるようになってきているように感じます。確かに団体奉仕はアピール度も高く、部外の方に理解してもらいやすいのは事実で、重要な分野かと思いますが、本質からいって、それ以上の個人奉仕を行おうとすると、相当の負担になります。肩が凝らず負担にならない自由な活動のできるクラブであってほしいというのが、私の希望するロータリーの未来像です。

若者の模範となる行動を



山科RC 柴垣 正彦

入会わずか4年の私に、ロータリーについての原稿依頼がまいました。「ロータリーを語るには、最低でも10年間は在籍しなければロータリーがわかってこない。」入会当時よく先輩から聞かされました。事実、4つのテストや4大奉仕について、またロータリーの精神等々、知れば知るほどたくさんの情報があります。これらの情報量の差によって、若いロータリアンがこれからのロータリーを考える時、かなりの差が生まれてくると思います。

例会出席や奉仕活動への参加等、まだ義務の域を出ないのが、私を含めて若い人たちです。これが権利の域に達し、権利を行使していると実感するようになれば、それは充実したロータリーライフをおくれている時だと思います。そして、その後時々この権利を放棄したい欲求に駆られた時、まわりの仲間の助けが必要になる時だと思います。

今の時点で私が考えるロータリーとは、仲間意識のもてる関係だと思っています。「奉仕活動」という社会生活を営む者にとって、不可欠な行為を気の合った仲間と行う。またその事業が、仲間との新しい関係を作りあげていく。地域に根付いた奉仕活動は、形として残り、また心に残ります。「奉仕」という言葉がよく口に出るようになった分、「奉仕活動」が日常生活の中からも意識できるようになった分、よりロータリアンに近づくように思います。ロータリーが組織として存在・活動することよりも、個々のロータリアンの意識のほうが、これからは重要ではないでしょうか。

未来への発信

友の輪を世界に広げよう



びわ湖八幡RC 廣瀬 直次

私はロータリーに加入して9年目になりますが、その時期を同じくして、当クラブでは台湾の台北・韓国の釜山との両クラブと姉妹交流し10年を経過します。私はこの友好関係を大変誇りに思っています。しかし国際委員長ともなれば大変で、クラブの予算もかなりその部分に費やされ、しばしば討論の対象となっております。だが我々は友好を決して中断しようなどとは思いません。毎年、青少年交流・周年行事・表敬訪問等を通じ、上辺の付き合いだけでなく、常に心と心の交流を目指してがんばっております。

我々は今、世界のロータリークラブでどのようなことがなされ、ロータリアンはどんなことを考え、行動しているかを知る必要があると思います。昨今インターネット等IT化が進み、あらゆる情報を居ながらにしてダイレクトに入手でき、メールのやりとりも可能です。言葉・生活習慣の違いもあり、一概にあてはめることは難しいかも知れませんが、そんな中からいろんなことを知り学び、自分達の行動の指針を見いだせるのではないのでしょうか？ 今後のロータリーは、益々国境を越えてグローバルな交流を充実していかななくてはならないと思います。

2004年には、大阪で国際大会が開催予定です。地元ロータリアンにおかれては準備が大変だと思いますが、逆にこのようなチャンスはめったにありません。このような時こそ、より多くの国・人々とコミュニケーションを図り、友の輪を広げていけたら素晴らしいと思います。

今の私に、長期の自由な休暇・時間が与えられたなら、世界中あちこちのロータリーの例会に出席し、共に手を取り合って、何かできればというのが私の夢です。

親の背中



京都山科RAC 幹事 辰見 直子

地区内にたくさんのローターアクトクラブがある中で、私はどうして京都山科RACにいるのか。とても不思議ですが、こんなにも幸せなご縁があるのでしょうか。京都山科ロータリークラブと、京都山科ローターアクトクラブは非常に親密な関係で、ロータリーさんいつも私たちのことを気に掛けて下さっています。ご提唱クラブのことを思うといつも心が温かくなり、私たちは非常に恵まれていると感じます。これは京都山科RACの自慢であり、誇りです。

子は親の背中を見て育つといいますが、京都山科ロータリークラブさんの奉仕活動には、ロータリーの真髄があります。これがロータリアンだ、ということをついつも行動で示されているのです。

ロータリアンの中には、ローターアクトのことを好ましく思われない方もおられると聞きます。もちろん、当クラブも例外ではないでしょう。しかし、私が幹事として努力したいことは、いままでアクトのことを良く思わなかった人にアクトのことを好きになってもらうこと。すべての方に、アクトのファンになってほしいのです。

親の期待に応え、「ローターアクトクラブを提唱してよかった」と思っただけのために、私たちはどのように活動したらよいのか。そして感謝の気持ちをどうしたら伝えることができるのか。私が常に悩み、考えていることです。

財団奨学生からのメッセージ

ドイツ留学の思い出

音楽を通じて役立ちたい



財団学友 名城 江利子 (武生RC)

帰国して早7年。時の流れと共に振り返ることも少なくなったドイツ滞在の日々。しかしながら一旦思い起こすと、あの頃の記憶が走馬燈のように蘇ってきます。

私が渡独した1990年、丁度東西ドイツが統一され東側からの労働者の流入により、フランクフルトでは住宅不足が一層深刻化して、着いて早々、私は家探しという大問題を抱え込むことになります。ようやく見つけた共同住居では、2人の同居人との毎日の生活の中、お互いのプライバシーを保ちつつ、助け合うというドイツ人気質にふれ、アパートの一人暮らしでは得られない貴重な体験をしました。

大学でのピアノレッスンでは、今まで気付かなかった音の響きの豊かさに目覚め、その大切さを学びました。響きの違いは、ドイツと日本の風土の相違に関係していると思います。また、私の先生は音楽一家の生まれで、交流のあったかつての名演奏家のエピソードなども直に聞き、偉大な音楽家を身近に感じることができました。大学以外でも、ほとんど毎週のようにコンサートホールへ足を運び、学生の特権でとても安いチケット代で一流演奏家の音楽に浸ることができ、至福の時を過ごしました。

短期旅行ではできないこのような経験を、ロータリー奨学生の立場で得られたことは、私にとって大きな財産です。このかけがえのないチャンスを与えて下さったロータリークラブの皆様、そして留学中お世話になったフランクフルトの方々への感謝の念を新たに、音楽を通じて少しでも世の中に役立ちたいと願っております。



善意への信頼



財団奨学生 杉本 恵太 (京都乙訓RC)

先日ここモントレー半島サンライズ・クラブでの例会に参加させて頂いた。朝7時からの例会に初めて参加させて頂くということで、遅れないようにと少し早く出かけた。そのため、私の到着は40人程の参加者のうち5番目となった。座席に案内して頂きコーヒーを飲みながら、同じテーブルにいらっしゃるロータリアンの方々に自己紹介。その場の暖かい雰囲気がとても有難かった。あたりを見回していると「人類が我々の仕事」と言う標語が目に入った。突然、心の中が暖かく感じられた。そして、私がロータリー財団の奨学生プログラムに参加しようと決めた理由を思い出していた。

一人一人の人間が、できる限り大切にされる社会を築くことができると希望し、国際人道援助に携わるようになった。紛争国において日々の実務を忙しくこなす一方で、人間や人生の意味について考える。圧倒的な人間の罪深さや悪について考え、人間の思いやりや善意のすばらしさに感動する。憎しみで引き裂かれた社会に生きる時、平和を取り戻すために究極的に必要なことの一つは、人々の心の中にあるであろう善意への信頼だと思う。ロータリーの「超我の奉仕」は、そんな人間の熱意への信頼から出発しているのではないだろうか。理想を追い求める時には、勇気が必要だ。ロータリアンの思いやりに触れる時、私はそんな勇気を頂く一方で、私の奨学生としての目標、また職業人としての夢を再確認している。

ク ラ ブ 自 慢

ソフト開発も

南 昌一（五條RC）

当クラブは、吉野杉・桧の産地として約400年余の歴史を持つ奈良県五條市と、その周辺在住の会員で構成されており、地域柄、林業・素材業・製材業等、木に関する職業に従事する会員が多く在籍しています。

パソコン同好会は、設立2年目を迎えました。外部講師によるインターネット・Eメールの操作の研修に始まり、計算用ソフト利用の勉強等、研修会を重ねてきました。

勉強を続ける中で、木材関連業務で立木の材積（体積）と市場出荷価格予想の試算が簡単にできるソフトができないものかという話題になりました。

材木は自然の産物で、山、木一本一本にそれぞれの特性がある。また、地域、人により計測基準、観察眼（勘）が異なるので、統一した計算ソフトの作成は難しいのではないかと懸念もありました。

しかし、「とにかく、一回取り組もう。」ということで、会員が仕事仲間から、経験則、計測方法等の情報収集・整理をし、全く木材とは無縁の会員がソフトの作成を行いました。

11月14日の例会後、ソフトについての意見交換会を実施し、使用方法・今後の改善点等について、積極的な討議が行われました。

異業種の集まりであるロータリークラブだからこそ、互いの知恵を出し合い、ソフト開発ができたのではないかと思います。また、しばらく、利用実験を重ねていき、よりよいものにしたいと考えています。



びわ湖 湖上 環境新世代会議

徳永 良孝（大津西RC）

クラブ活動の中で特に大きな活動は、2001年10月27日（土）「みずすまし」及び「一番丸」船上において青少年委員会、環境保全委員会の環境についての新世代会議を開催したことでした。大津市内、及び志賀町内の中学生並びに保護者をつのっての、水質と環境という大きなテーマを掲げてのものでした。

10月27日JR堅田駅に、中学生を迎えに参りました。最初姿を見た時には、子供の面影があり、幼い生徒さん達に見え、大丈夫かと思いましたが、いろいろ会話のやりとりをしていくうちに、なかなか礼儀正しく、受け答えもしっかりしていました。

船上にて南湖、北湖の水質調査をして「一番丸」上の新世代会議におけるセミナー、質問のやりとり等、大変しっかりとした質疑応答をこなして、私の中学生感が変わりました。

京阪地域1400万人の生活用水を次の世代へと、びわ湖の環境を正しく理解して、将来へと引き継いで行く希望を語ってくれました。

当日は、多くの新聞記者が訪れ、熱心に取材され、良い記事にして頂いたことを感謝します。

我がクラブの自慢は、今回、青少年、環境保全、雑誌・広報等の委員長がエネルギーをつぎこんだ結果と喜んでいきます。



ク ラ ブ 自 慢

21世紀を支える若い力に

上田 両 四 郎 (京都北RC)

我が京都北ロータリークラブは、京都の中心的伝統産業である、和装関係の本場をテリトリーに持つクラブです。メンバーの内約35%の方が、繊維関係者です。

この西陣でも構造改革を推し進めている現在、新しい会員の確保には、大変頭を痛めている状況ですが、今年度は全員一致で会員増になるように頑張っております。44年の歴史のある我がクラブには、自慢できることは沢山ありますが、特に創立19年目に提唱致しました、25年目の京都北ローターアクトクラブのことで、区内でもメンバー数の多いクラブで、毎年すばらしい活動をしております。今迄に何人もの方が地区代表を務めており、活動に対してもガバナー費を数多く頂戴しております。

今年度もすでにいろいろな事業を行い、地域に密着した奉仕活動を計画しております。11月下旬には青少年活動の一環事業として、竹の炭焼を行う予定です。

毎年ベテランのロータリアンがアクト委員長になって頂き、私たちロータリアンとの合同奉仕活動や家族ぐるみの交流も活発に行っております。ローターアクトの方々が、我がクラブのロータリアンになって頂けるように勤めているところであります。今までに、5名ものアクト卒業生が入会をしました。

今後もどんどん入会をして頂けるように、共に協力をしていきたいと願っております。21世紀の日本を支えてくれる若い力に、是非温かいご声援をお願い致します。



「ヨット教室」を開催

金子 高夫 (大津中央RC)

ひょんなことから5級小型船舶操縦士の免許に挑戦することとなり、四苦八苦の末、ようやく免許を取ることができました。そこで同期の3人と、すでに4級の免許を持っている者を集め、大津中央ロータリークラブヨット同好会と名づけ、無理やり理事会の承認を取り付け、今年8月に同好会として発足致しました。

9月末、会員であるヨットクラブの経営者をお願いし、同好会発足記念事業として「ヨット教室」を企画した次第です。

当日、微風快晴のもと、7メートル級のクルーザーに乗り込み、帆の装着からロープワークなど教えて頂きながら出航しましたが、モーターボートの操縦はできても帆走は大変難しかったのですが、後半風も出てきたことや慣れてきたこともあり、琵琶湖上を爽快に帆走することができ、3時間余りの乗船でしたが、大満足。参加者全員再計画を誓いました。またの日が待たれます。

